

令和6年度 リハビリテーション科学承認研究課題

研究責任者	研究課題名	承認No.
朝日 まどか	医学モデル教育、社会モデル教育が障害の捉え方及び障害者のイメージに及ぼす影響	2 4 R 2 3 5 2 4 3
岩部達也	昼寝時間の長さが粗大運動学習に及ぼす影響	2 4 R 2 3 6 2 4 5
中川賀嗣	新・標準高次動作性検査法の標準化：脳損傷例における評価適性の検討	2 4 R 2 3 7 2 4 4
用田 歩	自己制御フィードバックが立位姿勢制御に与える影響	2 4 R 2 3 8 2 4 6
用田 歩	自己制御フィードバックが立位姿勢制御に与える影響	2 4 R 2 3 8 2 5 8
岩部達也	パーキンソン病当事者に向けた震災対策交流会の実践報告	2 4 R 2 3 9 2 4 7
岩部達也	理学療法士養成大学1年次生における学習動機づけ、職業的アイデンティティ、主体的学び尺度のクラスター別縦断的变化及びその学業成績への影響分析	2 4 R 2 4 0 2 4 9
白幡吏矩	慢性足関節不安定症例の難易度の異なる視空間認知課題中の姿勢制御	2 4 R 2 4 1 2 5 0
河治勇人	変形性膝関節症症例における膝蓋下脂肪体の形態変化および輝度変化と臨床症状との関係	2 4 R 2 4 2 2 5 1
吉田晋	好みの顔画像は学習効果を上げるのか	2 4 R 2 4 3 2 5 3
吉田晋	好みの顔画像は学習効果を上げるのか	2 4 R 2 4 3 2 5 4
井上恒志郎	気温上昇に伴うフルマラソンタイム低下要因の解明：夏期と冷涼期の個人内変化に着目した検討	2 4 R 2 4 4 2 5 2
高橋尚明	側弯症患者の心理的負担に関する調査	2 4 R 2 4 5 2 5 5
本家寿洋	統合失調症の精神症状を改善するための楽しさプログラムの開発と効果の検討	2 4 R 2 4 6 2 6 0
本家寿洋	言語的交流による脳卒中後意識障害に及ぼす即時的効果～余暇活動の楽しさにおける言語的交流と一般的な言語的交流との比較～	2 4 R 2 4 7 2 5 6
小林健史	動作呼称課題用の動画作成	2 4 R 2 4 8 2 5 7
本家寿洋	在宅生活を送る未就学重症心身障害児の親子間の遊びの楽しさとは何か―保護者を対象とした質的研究―	2 4 R 2 4 9 2 5 9
小林健史	先天性遺伝性疾患を持つ方々のための言語機能および運動機能の向上を目指したコンピューター支援訓練システムの開発	2 4 R 2 5 1 2 6 1
小林健史	先天性遺伝性疾患を持つ方々のための言語機能および運動機能の向上を目指したコンピューター支援訓練システムの開発	2 4 R 2 5 2 2 6 6
本家寿洋	楽しさを考慮した余暇活動で脳卒中高齢者のうつ症状を改善する研究～地域在住高齢者を対象としたシングルシステムデザイン～	2 4 R 2 5 2 2 6 7
鈴木英樹	LINEを活用した運動を促す介入頻度と運動の継続との関係性について	2 4 R 2 5 3 2 6 5
児玉壮志	精神疾患の発症を予測する認知機能評価アプリの開発	2 4 R 2 5 4 2 6 2
鈴木英樹	高齢者における推しの存在意義	2 4 R 2 5 5 2 6 4
鈴木英樹	服装と運動遂行能力の関係性に関する調査研究	2 4 R 2 5 6 2 6 8